



米子市埋蔵文化財センターたより



第10号

2013年9月

観音寺狼谷山遺跡の調査 一米子市観音寺一

調査が始まってから、早いもので四か月が過ぎました。調査は谷部を終え、現在は尾根部に移り、標高 70m までの山道を毎日息絶え絶えに登り現場に向かっています。

当初谷部では、あまり遺構はなく遺物が出土するくらいだと考えていました。しかし調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡 1 棟、段状遺構 2 棟のほかに、時代は不明ですが、溝状遺構を検出しました。遺物は、期待していたよりは少なかったけれど、縄文時代から中世までの幅広い時代のものが出土し、中でも石鏃や石斧といった石製品が比較的多くみられました。また縄文土器は 1 点のみの出土ですが、予想外の出土で、今後の展開に期待しているところです。

毎年更新される異常な暑さの夏を乗り切り、ようやく秋を迎え涼やかな風を感じながらも、忍び寄る冬の気配におびえながら、山頂目指して調査は順調に進んでいます。(平木)



馬の背を登り調査中の尾根中腹部を望む



谷部で検出された段状遺構

発掘調査情報

こしきさん 越敷山古墳群の調査

—越敷ノ原地区—

昨年の12月から調査を開始した越敷山古墳群の調査は、現在は越敷山70号墳のある丘陵部へ調査の主体が移っています。

この地点では、当初は越敷山70号墳の周囲のみを調査する予定でしたが、丘陵の北側から不自然な平坦地形が見つかったため、この地点を調査したところ、斜面を段状に造成した平坦地と掘立柱建物跡1棟を検出しました。

段状の平坦地は、長さ11m、幅6mで、西側に入り口があります。掘立柱建物跡は、1間(2.2m)×2間(3.6m)の規模でしたが、この建物跡は平坦地の東側に偏った位置に建てられていました。

こうした建てかたになった理由は、建物の西側に広いスペースを確保するためと考えられますが、この地点からはほとんど遺物が出土していないため、この空きスペースにどのような機能があったのかはわかりません。越敷山古墳群に近い場所にありますので、もしかすると古墳の祭祀に使われた建物だったのかもしれませんが。(佐伯)



段状平坦地の掘立柱建物跡

整理室たより

境内海道西遺跡では、高さ68cmの甗形土器が出土しています。この土器は小型の甗形土器と組み合わせて土器棺として使用されていました。細かく割れた土器を復元していく作業は非常に根気のいる作業で、出土状況写真を見ながら接合していきます。復元が終わると実測に回されますが、大型品は実測台を使い、やぐらを組んでの作業になります。整理員さん達は実測道具にも工夫を凝らして、様々な土器の実測に簡便に対応し、精緻な図面を作り上げていきます。

(濱野浩美)



甗形土器実測作業の様子

遺跡シリーズ 1 1 別所 1 号墳 (べっしょいちごうふん)

別所 1 号墳は、1982 年県営五千石地区圃場整備事業に伴い発掘調査された古墳で、後円部に 2 つの横穴式石室をもつ古墳です。長者原台地の南側に位置し、上安曇と下安曇の間に入り込む侵食谷の最奥部の標高約 45 m の小支稜上に立地していました。長者原台地上の古墳の多くが日野川左岸の平野や法勝寺平野を望む場所に立地するのに対して、この古墳は平野を望まない台地内部に立地するという特色を持っています。墳丘は水田の開墾により大半が削り取られていましたが、調査の結果、全長推定 27 m の前方後円墳であることがわかりました。2 つの横穴式石室も盗掘や石材採り等で、大半破壊されていましたが、須恵器や勾玉、管玉、小玉などの玉類、鉄刀や鉄鏃など多くの遺物が残されていました。また、墳丘や周溝から、円筒埴輪、形象埴輪が発見されており、中でもシルクハットを被ったかのような人物埴輪が発見され注目されました。古墳時代後期の 6 世紀後半頃、長者原台地の南域を支配した豪族のお墓と考えられます。(小原)



楯持人物埴輪

コラムー古墳時代遺跡を掘る ⑦古墳時代前期 ー上福万妻神遺跡ー

1990 年、県道の整備に伴い発掘調査されたこの遺跡は、米子市東部の上福万の佐陀川の左岸に立地する古墳時代初頭 4 世紀のはじめ頃の集落遺跡です。竪穴住居跡 2 棟と掘立柱建物跡 1 棟が調査され、そのうちの 2 号住居跡は火事で焼けたと考えられ、炭化材と多数の土器が発見されました。焼土の下から発見された遺物は、完形の壺 3 個、大型甕 3 個、小型甕 6 個、高坏 2 個、低脚坏 2 個、器台 1 個、鉄製鎌 1 個でした。このことから、当時の竪穴住居の所有土器数を類推することが出来ます。(小原)



センター・資料館日誌

- 7月 1日 上淀白鳳の丘展示館との共催事業
「企画展・弥生の風を感じる」を
展示館で開催した。8月19日まで。
- 7月 3日 米子南高校生徒がインターンシップ
で埋文センターと観音寺現場を3日
間体験した。
出雲古代歴史博物館の柳浦氏が縄文
展の資料調査で来館された。
- 7月 4日 荒神谷博物館の平野氏が山陰形甗の
調査で来館された。
- 7月 7日 米子城跡ガイドウオークが雨天中止。
- 7月11日 「救命救急」研修を埋文センターで
開催した。
- 7月23日 出雲古代歴史博物館へ目久美遺跡ほ
か縄文資料を貸出。
- 7月25日 米子市文化財団の施設連携事業「夏
休み子供体験ツアー」福市考古資料
館見学。
- 7月26日 米子市文化財団の施設連携事業「夏
休み子供体験ツアー」を越敷山遺跡
で発掘体験を行った。
- 7月30日 勾玉づくり出前講座を加茂なかよ
し学級で開催した。
- 8月 2日 勾玉づくり出前講座を伯仙なかよし
学級で開催した。
- 8月 8日 勾玉づくり出前講座を尚徳・福生西
なかよし学級で開催した。
- 8月 9日 勾玉づくり出前講座を車尾・弓ヶ浜
なかよし学級で開催した。
- 8月12日 勾玉づくり出前講座を義方・明道な
かよし学級で開催した。
- 8月19日 荒神谷博物館へ山陰形甗を貸出。
鳥取大学・島根大学合同調査団が
28日まで古墳資料の調査で埋文セン
ターへ来館。



市内遺跡探訪ウオークで宗像群古墳見学

- 8月25日 埋文センター考古学講座第2回
「長砂第3遺跡でくらしの人たち」
を開催した。
- 9月 1日 愛媛県藤森氏が普段寺土器調査で
来館。
- 9月11日 福市考古資料館企画展「発掘調査速
報展」開催。10/28まで
- 9月20日 湊山中学校特別支援学級生徒が埋文
センターに来館。
- 9月29日 市内遺跡探訪ウオークを行い、宗像
古墳群や慈眼庵などを巡る。
- 9月30日 香川埋文センター乗松氏が石錘調
査で来館。

編集後記

夏の猛暑が終わり、めっきり涼しくなりました。センターの花壇ではコスモスが咲き秋の訪れを感じる日々です。米子は幸いにも竜巻や豪雨に襲われませんでした。台風も来ないように祈っています。

発行日 平成25年9月30日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者 (一財) 米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

